

令和8年3月17日 (火)

読売新聞 朝刊・地域面奈良

(第3種郵便物認可)

2026年(令和8年)3月17日(火曜日)

言説

雅楽成立の経緯詳しく

南都楽所・堀川さん説明 箏・篳篥の実演も

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」(読売新聞社後援)が15日、奈良市の薬師寺で開かれた。雅楽団体「南都楽所」で楽頭を務める堀川俊さん(88)の講演に、約150人が聴き入った。

華師寺月例 まほろば塾

「芸能」をテーマに学びを深める「シリーズ芸能」の2回目。堀川さんは中学で雅楽楽器・箏・篳篥の稽古を

始めて以降、70年以上、南都楽所に所属し、活動してきた。南都楽所は主に県内の社寺で奉仕を行っており、薬師寺でも落慶法要など大きな法要や年中行事の花会式で演奏している。

講演で、堀川さんは雅楽が日本古来の歌舞や、朝鮮半島や中国、アジア諸国の舞楽などを基に、平安時代に成立した経緯を説明。映像で雅楽の種類や楽器の音色を紹介し、自らも箏・篳篥を演奏した。「瞬間に消える芸能で、演奏や舞を含めて口から口へと伝えなければならず、どう教えるかが難しい。伝承する一人としてお話できてうれしい」と語った。

次回の月例塾は5月17日、上原究一・東京大准教授が登壇する。

講演する堀川さん
(奈良市で)

